



NHK海外たすけあい募金活動



ふれあいの窓

かごしまJRC

発行所
鹿児島県青少年赤十字
指導者協議会

事務局
日本赤十字社鹿児島支部
鹿児島市鴨池新町1番5号
電話(代表)252-0600

夏季リーダーシップ・トレーニング・センター等 海外(ベトナム共和国)派遣(高校生)事業 報告 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ」

本年度も、青少年赤十字活動が充実のうちに終えることができ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。お蔭様で加盟校も徐々に増え、青少年赤十字への認識が高まってきています。

さて、私は昨年六月に東京で開催されました全国指導者協議会総会に出席してまいりました。各県から会長が集まり、講義を受けた情報交換をしたりしました。どの県もそれぞれ特色を生かした活動に取り組んでいること、特に東北地方は切実な問題として、まさに実践を重ねていることなど学ぶことが多くありました。

さらに、文部科学省の中尾敏朗視学官の「学校教育と赤十字」の講義では、「気づき、考え、実行する」に加えて、「振り返る」活動の大切さを強調されました。このサイクルを積み重ねることによって指示待ち人間からの脱却が図れるということです。さらに青少年赤十字の精神と学習指導要領の理念とは、生きる力を育成するという点で一致するものであり学校の活性化につながることもお話しされました。そのことは、思考力や判断力、表現力を養うものでもあり、現在喫緊の課題である学力向上へもつながっていくものです。今後多くの学校が経営案の中に、青少年赤十字の精神を盛り込んでいただければ幸いです。

来年度も更なる御指導・御協力をよろしくお願いたします。



学校教育と
青少年赤十字
青少年赤十字指導者協議会
会長 有馬 修吾
(重水市立垂水小学校長)

「わたしのおじいちゃんのおかげで、はたけがたくさんありました。でもおうちもはたけもぜんぶつなみでながされました。たくさんのおいもをつくらせてくれて、ありがとうございました。」(名取市立増田小一年 森 美月)

賛助奉仕団が育て、収穫は、加盟校溝辺小学校四年生の手伝いをいただいた。今年度の送付先は宮城県だった。

五月中旬に植え付け、除草や夏返し作業を進め、十月中旬に収穫した。団員の熱意に応じてくれたさつまいもは、太り気味だった。八百五十キロの箱詰めができ、今年も東北からの「ありがとう」に、団員は奉仕の喜びを深くした。

東日本大震災二年余の後、全国ねりんピック仙台大会美術展に参加した。津波に飲み込まれた仙台空港は、爪跡が残っており、松高湾では、津波の高さが確かめられた。JR沿線の仮設住宅には、重苦しさを感じた。

三二一の直後、山形屋前で街頭募金に立った。道行く人々の足の動きは、募金箱に自然と近付いた。それに勢いもあった。数時間で四十八万円程の善意に驚き、その数日後も活動をした。

青少年赤十字に関わるようになり、年輪は増えているが、自然災害にどれ程の心を寄せて来たのだろうか。ただ年齢を重ねると、どうしても活動力が乏しくなる。アンリー・デュナンの徳分の、だけでも活動が続けられるよう努めたいと考えている。



自然災害と
向き合って
青少年赤十字賛助奉仕団
副委員長 室屋 勝男

青少年赤十字

実践目標
健康・安全・奉仕・国際理解・親善

態度目標
気づき、考え、実行する

九州ブロック青少年赤十字海外(ベトナム共和国)派遣事業

参加者 小原和彦(鹿児島情報高校2年), 中村遼太郎(甲南高校2年) 指導者 久保孝明(鹿児島市立吉野中学校教諭)

期間 平成25年8月17日(土)~23日(金)



海外派遣を振り返って

鹿児島情報高校2年 小原 和彦 甲南高校2年 中村 遼太郎

今年度の海外派遣は、8月17日から23日の6泊7日で派遣先は昨年度と同じく、ベトナム社会主義共和国という内容で行われました。

ベトナムは現在発展途中にあり、町全体も現地の人々も活気にあふれており、首を90度あげるほどの高層ビルや、昔ながらの家屋が建ち並び、時代の変遷を感じさせる街並みでした。

しかし、ベトナムは常に戦争と隣り合わせであった国であり、軍事歴史博物館では、1960年に始まったベトナム戦争をはじめとした数多くの戦争の史料が展示されていました。

現地のRCYメンバーとの交流会では合唱とソーラン節を披露しました。本番までの練習時間はそれほど確保できず、不安もありましたが、最高の演技ができ、メンバー同士の結束も一層強くなったと実感しました。また、世界自然遺産であるハロン湾を視察し、雄大な自然を満喫しました。

マングローブの植林活動では、膝まで浸かってしまう湿地帯を歩きながら植林を行いました。その日のHRでは、もっと植林の効率を上げるにはどうすればよいかなどの議論が交わされていました。

今回の海外派遣で、数多くの貴重な体験ができ、今までにはなかった新たな感性が芽生えたと思います。この体験や仲間たちとの絆を忘れず、今後の生活を充実させたいです。



サマーキャンプに参加して

鹿児島市立坂元台小学校 徳永 貴子

二十五年四月、東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ」のお話をいただきました。今回で二回目。自分ができる何かか、また少しでもあるのならと思い、即返事をしました。指導スタッフとしての主な仕事は、参加する児童生徒の安全管理。十名ずつの子どものグループやキャンプ全般の指導助言でした。

このサマーキャンプは、東日本大震災のために日本へ救援金を寄せてくれた百か国のおかけとたくさんの方々の協力で開催することができました。こうして、いろいろな奇跡が重なり、四日間を過ごす仲間を大切に、そして、感謝の気持ちを忘れずという思いで、子どもたちやGSのみならず、子どもたちの笑顔のために「を合言葉にGSのみならず、夜遅くまで次の日の活動について話し合う姿に私自身、たくさんのお話を聞かせていただきました。一人ひとりが、気づき、考え、実行したからこそ、たくさん笑顔が見られた四日間となったのだと思います。一人ではできなかったことも、仲間と一緒にできたこともあったのだと思います。

このサマーキャンプで学ばせていただいた自分ができる何かをこれからも忘れずに、私自身が、気づき、考え、実行する人であり続けたいと思います。



平成25年度 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター等

小学校トレセン 8月5日(月)~7日(水) 霧島自然ふれあいセンター	中学校トレセン 8月7日(水)~9日(金) 霧島自然ふれあいセンター	高等学校トレセン 8月7日(水)~9日(金) 霧島自然ふれあいセンター	離島一日トレセン 7月29日(月) 奄美少年自然の家
---	---	--	---



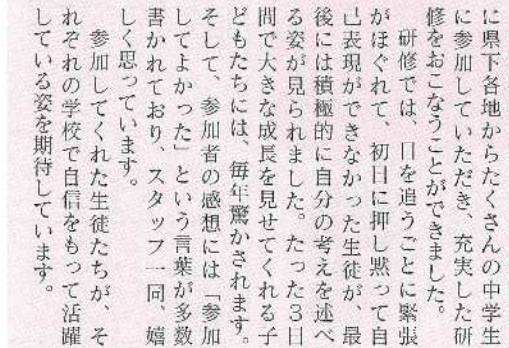
小学校トレセン

■主な内容
青少年赤十字とは？
健康安全プログラム、野外活動
ワークシヨップ、情報交換
■参加校名(順不同)
坂元台、前之浜、田之浦、田上、清和、加治木、垂水、米ノ津東、阿久根、花野

青少年赤十字の「員としての自覚」
主任 鹿児島市立花野小学校 真鍋 雄一郎

今年の夏季小トレセンのテーマは「青少年赤十字の員として、リーダーシップを身につけよう」ということでした。子どもたちは赤十字についての学習を通して、自分が青少年赤十字の員であるという自覚をもつことができました。また、フィールドワーク等のプログラムを通して、ホームの絆を深めるとともに、リーダーシップの大切さにも気づくことができました。

参加者が青少年赤十字の員としての自覚をもち、各学校でリーダーとして活躍している姿を期待しています。



中学校トレセン

■主な内容
赤十字と青少年赤十字について、情報交換、健康安全プログラム、VSについて、野外活動、ワークシヨップ
■参加校名(順不同)
第一、佐多、谷川、金峰、南、知覧、福山、菱田、有明、大崎第一、錦江、武岡、細山田、喜入、鹿屋東、米ノ津、吉野、青戸

トレセンを終えて
主任 鹿児島市立吉野中学校 蓮子 さゆり

今年度のトレセンは、例年以上に県下各地からたくさんの中学生在に参加していただき、充実した研修をおこなうことができました。

研修では、目を追うことに緊張がほぐれて、初日に押し黙って自己表現ができなかった生徒が、最後には積極的に自分の考えを述べる姿が見られました。たった3日間で大きな成長を見せられる子どもたちには、毎年驚かされます。

そして、参加者の感想には「参加してよかった」という言葉が多数書かれており、スタッフ一同、嬉しく思っています。

参加してくれた生徒たちが、それぞれの学校で自信をもって活躍している姿を期待しています。



高等学校トレセン

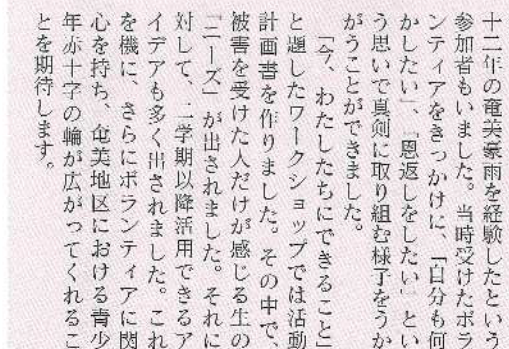
■主な内容
青少年赤十字について、情報交換、健康安全プログラム、野外活動、ワークシヨップ
■参加校名(順不同)
鹿児島高、薩南工業高、鹿児島女子高、鹿児島情報高、鳳凰高、甲南高

高校トレセンを振り返って
主任 鹿児島高等学校 新留 奈津子

「私たちが出来ること」をテーマに、二十二名の参加者と内容の濃い学習を行うことが出来ました。

ワークシヨップでは、錦江園を訪問した時の経験をいかしてニーズにあったものを護生日プレゼントにしようとして、ペットボトルを利用した入れ歯ケース、拡大鏡、壁掛花瓶、造花、答書きを作成しました。

自分から行動を起こすことの大切さ、自分たちには出来ること、たくさんあることに気づきながら参加者全員が積極的に活動して、また参加したいと感じられるトレセンになるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。



離島一日トレセン

■主な内容
赤十字と青少年赤十字、非常食炊出し、健康安全プログラム、情報交換
■参加校名(順不同)
朝日小、小宿中、大島北高

青少年赤十字の輪の広がりに期待
主任 宮界町立吉野小学校 富永 圭一

二年に一度の離島トレセン。今年度は奄美大島での開催となりました。会場の奄美少年自然の家は、十四名の小・中・高等学校生が集まり、学習をしました。その中で、平成二十二年の奄美豪雨を経験したという参加者もいました。当時受けたボランティアをきっかけに、「自分も何かしたい」、「恩返しをしたい」という思いで真剣に取り組む様子をうかがうことができました。

「ふ、わたしたちができること」と題したワークシヨップでは活動計画書を作りました。その中で、被害を受けた人だけが感じる生の「ニーズ」が出されました。それに對して、二学期以降活用できるアイデアも多く出されました。これを機に、さらにボランティアに関心をもち、奄美地区における青少年赤十字の輪が広がっていくことを期待します。

NHK 海外たすけあい 募金活動



十二月一日(日)から二十五日(水)まで実施された「NHK海外たすけあい」キャンペーンの一環として、日赤鹿児島県支部は県内3ヶ所(延べ4ヶ所)(鹿児島市、薩摩川内市、鹿屋市)で街頭キャンペーンを実施しました。青少年赤十字加盟校の小・中・高校生は賛助奉仕団などと総勢百三十名で「NHK海外たすけあい」の募金の呼びかけを行いました。募金額は合計で186,362円でした。

皆様から寄せられた寄付金は、世界各地で苦しんでいる人々を救う国際活動の事業に使われます。

また、今回は十一月の台風三〇号で大きな被害を受けたフィリピンを支援するため、二〇一三年フィリピン台風救援金の募金活動も同時に行いました。協力有難うございました。



12月7日(土) 鹿屋市
12月14日(土) 薩摩川内市
12月21日(土) 鹿児島市



一日リーダーシップ・トレーニング・センター

小学校

期 日：平成26年2月22日(土)
内 容：非常食の実習
「ボランティアとは？」
赤十字と青少年赤十字
参 加 校：中郡、前之浜、新城、花野、
(順不同) 坂元台、垂水、加治木



中学校

期 日：平成26年1月18日(土)
内 容：非常食の実習、青少年赤十字と生徒会活動、私たちの生徒会(ボランティア)活動、ワークショップ
参 加 校：加世田、桜丘、三笠、桜島、武、
(順不同) 武岡、谷山、伊敷、金峰、喜人、天保山、第一鹿屋、細山田、鹿屋東、吉野、青戸、南、谷山北



高等学校

期 日：平成26年2月16日(日)
内 容：非常食の実習
春季総会
創作活動「今 わたしたち
にできる おもてなし」
参 加 校：鹿児島女子、薩南工業、
(順不同) 甲南、鹿児島、鹿児島情報、鹿児島玉龍



加盟校(園)数(3月1日現在)

幼稚園 39 園, 保育園 23 園
小学校 257 校, 中学校 120 校
高等学校 21 校, 特別支援学校 1 校
合計 461 校(園)

★平成25年度 新規加盟校(園)★

田皆幼稚園	(1園)
清水小(鹿市), 中福良小(南九州市), 霜出小, 鶴川内小, 田崎小, 諏訪小, 岩北小, 内之浦小, 知覧小, 獅子島小	(10校)
大始良中, 細山田中, 小宿中	(3校)

計14校(園)

鹿児島県支部

「第2回 100文字作文」コンクール

日本赤十字社鹿児島県支部と青少年赤十字指導者協議会では「人道・博愛」の精神の普及及び青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」の啓発に資するため、「100文字作文コンクール」を実施しました。県内の63校の小・中・高校生から5,781点の応募がありました。

2月11日に審査会で各賞の審査を行い、優秀な作品を決定しました。なお、今後は優秀な作品を作品集として作成し、各加盟校にお届けします。

今回は支部長賞のみ紹介します。

曾於市立岩南小学校	2年	向田ひろき
鹿児島市立武小学校	3年	寺町和香奈
出水市立荘小学校	5年	山口 理子
与論町立与論中学校	2年	三上 真由
鹿児島高等学校	2年	草場 美雪

